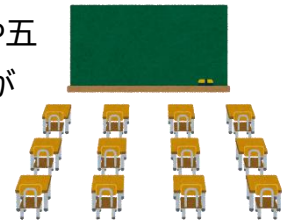




## コロナ禍の新採教職員と面談して

～今年のカウンセリングから～

今年も5月から新採教職員のカウンセリングを開始しました。例年、この時期の新採の方は、生活環境の変化とわからないことだらけの連続にこころも身体もヘトヘト。「大きな声では言えないけど本音はやめたい」という声がよく聞かれたものです。ところが、今年は新型コロナでほとんど授業をしていなかったためか、余裕が感じられます。授業準備に時間をかけたし、先輩とも話げできたという方が多かったです。この調子で初年度を乗り越えてくれるといいのですが、気になることもあります。毎月の研修や五色台の合宿研修が中止になりました。そのため、同期生同士の横のつながりが持てませんでした。壁にぶつかったとき、同じ悩みを抱える同期生の存在はとても大切です。さらに、運動会などの学校行事を体験することによって、実践力を身に付けていくのですが、未体験のままです。



新型コロナは生徒にも多大な影響を与えています。長期の自宅待機は、学習の遅れや生活態度の崩れの他に、家庭での親子関係や兄弟関係にも微妙な変化をもたらしています。普段よりも嫌な面が見えやすくなるので、一言多くなって衝突しがちです。さらに、適切な身体的距離を保つことが困難な住環境の場合、衝突を避けるために、お互いに無関心を装いつつ我慢を強



いられるのでストレスが生じます。一般的に、人口密度が高くなると、人間関係は疎になりやすく、人口密度が低くなると、人間関係は密になるようです。満員電車では誰もが沈黙していますが、乗客の少ないローカル線では、知らない人同士が気軽に会話を楽しんでいる光景をよく見かけます。人口密度と人間関係の濃淡はとても重要な視点と考えています。

このような事例もありました。不登校のA君は「いつもは登校しなければというプレッシャーでイライラしながら休んでいる。でも、新型コロナでみんなが休んでいるので、スッキリと休めた」と話してくれました。彼はスッキリ休めるかどうかが生きるためのエネルギー蓄積のキーワードと言っているように思われます。他の不登校の生徒からも同様の発言があったので、彼らの今後に注目しています。

新型コロナは、すべての人の生活を一変させました。出口の見えない長いトンネルの中で、感染することへの不安と世間体を気にしながらの生活を余儀なくされています。

不安やストレス状態に置かれると、その解消を求めて、攻撃性が表面化する可能性が高まります。二学期以降、生徒間のSNS上での誹謗中傷やいじめなどが心配です。生徒への積極的な声かけを増やしましょう。生徒の小さな変化に気付くことはとても難しいのですが、早期発見こそが問題解決の第一歩です。

